

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600023		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム笑生苑より愛		
所在地	防府市仁井令765-6		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年10月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者のペースで生活してもらう事、②介護全般において判断に迷った時は入居者の利益になる方法を選択する、③天候が許す限り毎日散歩に出る、の3点を心掛けている。具体的には、①についてはレクリエーションをする際入居者に強制をせず、希望者のみ参加していただく。不参加の方については定期的に居室に訪問して安否確認をしている。②については、勤務体制を入居者の生活パターンに合わせて変更した。③については、暑い季節が終わりつつある為、午前中に往復15分程度の散歩を全入居者に対し実施している。  
1ユニットで従来家屋を改築したグループホームである点を生かし、入居者に「以前から住んでいたかのような安心感」をハード面から得ていただいていると思う。ソフト面でも入居者それぞれのペースに合わせて対応している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人一人の思いを大切にケアをされるために、職員の都合に合わせていないか、どうしたらよいのかを話し合われ、勤務体制を3パターンから5パターンに改善しておられる他、入浴の支援も職員の都合ではなく、一人ひとりの意向を大切にされ、習慣や好みを聴かれて、くつろいだ気分で入浴できるよう支援されています。月2回喫茶店でケーキを食べたり、外出時に外食をされたり、法人のにぎり寿司フェアに参加されるなど、「食」を通じた様々な取り組みを活かして、利用者が楽しめるように支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・リーダー職は理解している。一般職員については、文言を明確に覚えているわけではないが、その意図するところは概ね理解し実践している。入居者の「自分でやりたい」という思いを第一に考えている。	地域密着型サービスの意義をふまえた、事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。日常の業務の中で管理者が指導している他、職員間で話し合い、理念を共有して実践につなげるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り・苑主催の祭・自治会主催の共同作業(瓦礫搬出等)には積極的に参加している。その際苑での出来事を話し、認知症についての理解を深めてもらえるよう努力している。喫茶店や理容室などの地域資源を積極的に利用している。	自治会に加入し、総会に管理者が出席している他、ゴミ分別に職員が参加している。事業所主催の夏まつりには地域の人の参加があり交流している。近くのお大師さまにお参りする時や散歩時に地域の人と挨拶をしている。近所の喫茶店に1ヶ月に2回利用者と一緒に行き、ケーキ等の飲食を楽しんでいる。ボランティア(手芸、オカリナ、フラダンス)の来訪や大学生の実習の受け入れをしている。地域の人からの花の差し入れなどもあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の取り組み状況について、2か月に一度の運営推進会議等で披見している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を記入し評価を受ける事によって、技術の向上や業務改善を目指している。又日々業務内容について話す機会を持っている。	評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、話し合いをして管理者が取りまとめる中で、表現方法や項目の捉え方の違いがあったほか、記録の共有方法の見直しなどの意見がでている。利用者の日々のその人らしい暮らし方についての取り組み方法やカンファレンスを毎月実施したり、定期的なモニタリングの実施など、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席された地域の方(自治会長・民生委員)からの意見を議事録に残し、後日苑にて報告している。	2ヶ月毎に開催し、介護保険の改定についてや苦情報告、現状報告、行事報告、研修報告、避難訓練報告、事業所の一日の流れなどについて報告して話し合っている。利用者の状況をもっと知りたいという意見があり、家族に写真を送付したり、状況を伝えるなどの支援をしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の席で行政担当者や包括支援センター担当者と逐次情報交換を行っている。	担当課とは運営推進会議時の他、介護保険の更新時、利用者の移動などについての報告などで出向き、相談や情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時以外にも連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在自らが勤務するサービスが地域密着型サービスである事は理解出来ている。施錠については日中は出来るだけしないように努力していたが、若年性認知症の方で僅かな時間で外に出てしまう方がおられる為、現在は日中も施錠せざるを得ない状況である。	法人研修を受講し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに努めている。利用者の状況によっては施錠する時間帯もあるが、職員間で話し合い、外出を察知したら一緒に出かけるなどの工夫をしている。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的なものだけではなく、スピーチロックも虐待になる事を周知し、言葉の虐待にならないよう心掛けている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解除の際とも書面を読み上げ、随時質問を受けながら説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人からの要望・苦情については随時受け付け、職員会議等で対応を検討している。	苦情の受付体制や苦情処理手続きを契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。運営推進会議時、面会時、電話等で意見や要望を聞く機会を設けている。家族からは運営に反映させるまでの意見はでていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回「より愛全体会議」を開催し、全職員で諸問題の検討をしている。その際各職員からの提案事項も検討している。	毎月の職員会議時で職員の意見を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。日中の職員数を増やして、より多くの時間を利用者の支援にあてる提案や職員間のコミュニケーションの充実、階段の手すりの設置などの意見があり、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新年度に入り勤務状況を再精査した。管理者案を職員と検討し5月から新しい勤務体制をスタートさせた。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人全体会議では外部講師を招いての研修があり、職員を参加させている。法人外では山口県宅老所・グループホーム協会の会合に参加している。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として、参加の機会を提供している。受講後は復命報告をしている。法人研修は月1回、当日勤務者以外の職員が参加し、身体拘束、接遇倫理などの研修を実施している。内部研修は復命報告を研修としている。2ヶ月に1回の県宅老所グループホーム協会の勉強会にも参加している他、日常の中で働きながら学べるように支援している。	・内部研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内においてはグループホーム部署による部会が立ち上がった為職員を参加させている。法人外においては(主に管理者だが)宅老所協会等の会合に出席している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人・家人に対して事前面談を実施し、入居時どのような生活をされていたのか話の中から探っている。同時に施設見学も実施している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は本人・家人・ケアマネと面談をし、本人の生活歴や既往症などを聞き取って信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至る経過を把握し、グループホーム入居しか手段がないか関係各位と検討している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者からの自発的な家事申し出がある為、洗濯物たたみやお盆拭きは日常的に入居者の仕事にしている。また月に2度入居者が昼食を調理する機会を作っている。いつの間にか職員がしてしまっていたという事にならないよう努力している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人には最低月1回の来苑をお願いしており、本人様との関わりを持っていただいている。その際に日頃の状況等を説明し理解をお願いしている。又農家出身者が多い為、畑の耕作をしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も苑に来所していただける様、ご家族をお願いしている。又一部ではあるがご友人の来所もある。年賀状もいただいている。	知人、友人、親戚の人の来訪、馴染みの美容院の利用や年賀状の支援がある他、家族の協力を得ての墓参り、法事への参加、一時帰宅、外泊、外出、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中は集団で行う体操レクを行っている。他者がいる事で安心される方があり、ひとりにならないよう配慮している。入居者同士の相性問題もあり、席順など職員が適宜サポートしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者(サービス利用終了者)については、月に1回程度転居先を訪問し、職員から様子を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人のペースで、又判断に迷った時は入居者の利益になるように心掛けている。	フェイスシートの活用や日々のケアの中での言動、表情などの連絡ノートへの記録や口頭で共有に努めているが、思いや意向の把握は十分とは言えない。	・思いや意向の把握の方法の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は本人・家人・ケアマネと面談をし、本人の生活歴や既往症などを聞き取っている。新たに得た情報は職員間で連絡ノートへの記載や口頭で共有を図っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	5月より介護記録を刷新し、日々の状態が分かるようにした。朝に夜勤者から早出職員へ、夕方に早出職員から遅番職員へ申し送りをする際に活用している。バイタルチェックは毎朝実施している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3か月に一度カンファレンスを実施し、各職員から見た入居者像を立体的に構築している。医療的な事案については訪問看護に随時相談している。	計画作成者を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人、家族、医師、看護師等の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月ごとや6ヶ月毎の見直しをしている他、要望や状況に変化があった場合は、モニタリングに基づいて見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を刷新し、食事量や水分量、言動が分かるように記載を心がけている。様子が違う場合や気になる事が発生した場合は職員同士で情報交換している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家人より「結婚式に参列させたい」との申し出があり、対応を検討している。その他冠婚葬祭への参加の際は対応している。毎月1～2件程度の医療機関受診があり、随時対応している。又月に1～2回ボランティアさんに来所していただいている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪は苑に来ていただくのと同時に、可能な入居者については地域の理容室に出向いて実施している。近隣者宅へ季節の花々の見物に行く事もある。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時に、普段の状態について主治医に説明し、適宜指示を仰いでいる。必要な場合は入居者家族に連絡している。	本人及び家族等の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の往診がある他、訪問看護師による週1回のバイタルチェックがある。他科受診も含めて、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は記録し、家族と電話で情報を共有している。訪問看護師と連携し緊急時の対応をするなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師が来所する。リーダーが中心となって一週間の状態を伝えている。又熱発等の際は看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の前後には家族・医療機関と連絡を密にし、苑での生活に支障がないよう配慮している。口頭・面談・書面(サマリ)等で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	構造上の問題があり当苑では看取りが出来ない旨を入居時に説明している。現状は随時報告するようにし、又当苑での介護が困難になってきた場合は他施設への転居を家人と一緒に考えている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族、医師、看護師等関係者と話し合い、医療機関や他施設への移転も含めて方針を共有し、取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全ての職員に応急手当や初期対応の訓練が出来ているわけではない。事故報告やヒヤリ・はつが出た場合は随時対応を検討している。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員で対応策を記入し、ミーティングで説明し、月1回の職員会議で確認、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練の実施はしていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時には火災を想定した訓練を実施している。運営推進会議の時自治会長様にいざという時の協力をお願いしている。	消防署の協力を得て、利用者と一緒にな年2回夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練と風水害時の対策訓練を実施している。自治会長、民生委員に参加の呼びかけを運営推進会議時にしている。地域との協力関係を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず「入居者は人生の先輩である」という点を忘れないようにしている。慰問無礼にならない程度に親しみやすい言葉かけをしている。難聴者には大きな声でゆっくり話しかけ威圧感を与えないよう配慮している。居室に入る際はノックをするようにしている。	法人の接遇、倫理研修に参加し、職員は理解をして誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。職員は情報の個別性や守秘義務について理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方でも自己決定がしやすいよう、判断ししやすい言葉かけを心がけている。1対1での個別外出を実施し、本人の意向を確認している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間眠れていない方については午前中静養をお願いしたり、食堂で食べたくない方については居室で召し上がっていただくなど、可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケアや入浴後などに、櫛や化粧水を自ら使ってもらっている。またある程度出来る方については入浴準備を職員と一緒に実施し、洋服を自ら選んでもらっている。散髪は2か月に一度程度で、近隣の理容室に行ってもらったり当苑に来所していただいたりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特に下膳やお盆拭きを積極的にやってもらっている。又月に2回入居者自ら調理する日を設け参加していただいている。包丁を使う際は職員が傍で見守りしている。メニューはそうめんなど季節感を感じてもらえる事が出来る様配慮している。	食事は法人からの配食を利用し、ご飯と汁物を作っている。月2回の昼食づくりでは利用者の好みを聞いての献立をつくり、採れた野菜を使って調理をしている。利用者は職員と一緒に盆拭きや下膳などできることをしている。職員は利用者と同じ食卓で利用者がゆっくりと食事を楽しめるように支援している。弁当を持っての花見や外出時の外食、季節の行事食などの他、家族の協力を得ての外食などで食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人本部付の管理栄養士が立てたものを提供している。食事量や摂取水分量を記録し、少ない場合は追加摂取を指示している。水分は食事のほか10時・15時と夜間トイレの際に提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあとは職員が見守りをして口腔ケア(舌苔ケア含む)を実施している。また週に2回義歯洗浄剤を使用し義歯の清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者別に排泄パターンがあり、職員はそれに沿ってトイレ誘導をしている。尿取りパッドの種類を変える事によってズボンの上げ下げがスムーズになった方もおられる。排泄記録も随時記入している。	排泄チェック表を作成して、一人ひとりのパターンや習慣を把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、足りない方には追加摂取を働きかけている。また排便状況によっては緩下剤を調節したり入浴時の下腹部マッサージを実施している。天候の良い日は近隣散策を実施し、困難な日は室内で出来る体操を主に午前中に実施している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は1日に一度で4～5名/日。急がずに各入居者のペースに合わせて入ってもらっている。その日に入れなかった方については翌日対応や足浴・清拭を実施している。	入浴は毎日、13時から16時30分まで可能で、利用者の希望や習慣、体調などに合わせてゆったりと入浴できるよう支援をしている。状態等によってはシャワー浴や清拭などの対応もしている。入浴したくない人には時間をかけて、何度も声かけをしたり、職員を交代したりするなどして、チームプレイ等によって一人ひとりの応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室温度を管理し、各入居者にあつた環境づくりに取り組んでいる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が交代で内服のセッティングを実施している。内服時は見守りを実施し、介護記録に記入している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のレベルや好みに合わせて作業等をお願いしている。	生演奏と歌、テレビ視聴、クッキング、生け花、ぬり絵、ちぎり絵、習字、パズル、折り紙、学習療法、カラオケ、野菜づくり、手芸、オカリナ、ゴミ拾い、盆拭き、テーブル拭き、新聞、本読み、季節の行事(餅つき、クリスマス会、七夕飾り、バレンタイン)など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある暮らしができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝2～3人ずつ近隣を散策している。又毎月1～2回程度食事を含めた外出行事を企画・実施している。	散歩、買い物、初詣、カラオケ、花見(寒桜、紫陽花、コスモスなど)お大師さま参り、ドライブ(富海海水浴場、海響館、ルルサスツリー見学)、法人のまつり、外食(ハンバーグ、中華、喫茶店)などに出かける他、家族の協力を得て外食、外出など戸外に出かけられる支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行楽地や外食へ出掛けた際、出来る方については支払いを本人にしてもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自らが電話をしたいという要望はないが、手紙が来た際は本人にお渡ししている。年賀状も毎年作成している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の花は季節に合わせて入居者と共に入れかえている。廊下等の照明については適時切り替えをし調光している。	民家を改築した事業所は、利用者にとっては馴染みやすい環境で縁側のソファに座って庭の木々や花を眺めることができる他、家並が見渡せて利用者の居場所となっている。台所や床の間や装飾品などで家庭的雰囲気がある。温度、湿度、換気に配慮し、階段や手すりの増設、浴室の状況に合わせての環境設備など、過ごしやすい共用空間になるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のほか、縁側にソファを設置し有スペースとして活用している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は新品を用意してもらうのではなく、本人の使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。廊下には入居者が作成した手芸品などを掲示している。	テレビ、ソファ、椅子、カーペット、整理ダンス、衣装ケースなど使い慣れたものや好みものを持ち込んで、本、写真、ぬいぐるみ、ぬり絵の作品などを飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・廊下の必要な場所に手すりを設置し、自力で歩けるよう配慮している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 笑生苑より愛

作成日: 平成 26年 3月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	法人の全体研修に毎月参加しているが、職員のレベルアップに十分効果を発揮しているとは言えない。	介護における知識や技術の習得によりレベルアップを目指す。	法人内での研修に引き続き参加するとともに、法人外の各種研修に常勤職員を中心として参加する。	12ヶ月
2	21	本人が入居後、家族との関係は継続しているが、親類知人との音信は疎遠になりつつある方が多い。	入居後もこれまでの人間関係を継続する。	ご家族の協力の元、知人の皆様にも来苑していただける様に働きかける。また自宅周辺へのドライブ等も計画する。	12ヶ月
3	24	介護記録類において、本人の思いや意向の把握が不十分である。	記録類を充実させる事により、各入居者の思いを把握する。	介護記録を記載する際、本人の言動を今まで以上に記録する。	12ヶ月
4	35	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を受けている訳ではない。職員間のレベル差が顕著である。	訓練を受ける事より、いざという時にもパニックにならずに対応できるようにする。	法人内での応急手当の研修があった場合は必ず参加させる。又各団体が主催する同様の研修に参加させるべく、常にアンテナを張り巡らせておく。	12ヶ月
5	36	災害対策において、地域との協力関係を築くまでには至っていない。	事業所内関係だけでなく、地域との協力関係を築く。	平成26年度は自治会に自主防災組織が立ち上がる予定。加えて当苑が1年間所属の自治会の班長を務める事となった。これを機に民生委員をはじめとした地元の方々に苑の事を知っていただき、災害弱者が複数いる事をPRする。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。